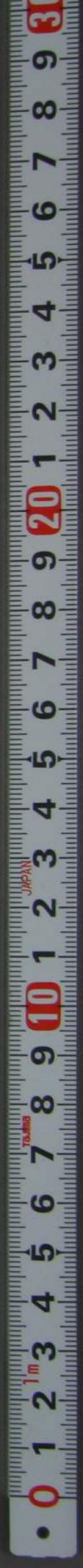


千八百七十八年八月二日刊行「ジャッパングゼツ」新聞抄譯
内國債論

大藏省
翻譯課

は
一

4042



114
A2428



八百七十八年八月二日刊行

新聞

抄譯

内國債論

峯源次郎 譯

大正十一年四月

吾輩ノ七月十七日刊行ノ新紙ニ内國債論ヲ掲載セレハ政府要
 求ノ金額ヲ既ニ徵集シ了リタリト云フ報告ヲ明文ヲ見サル
 前ニアリシカ故ニ吾輩其詳細ノ事件ヲ知ル能ハナレ然レ而
 レテ内國債ノ額ハ既ニ集了スルノ成効アリシガ故ニ内國債論
 者ハ忽チ予輩ノ叢ニ掲載シタル内國債成効スヘカラサルノ論
 ヲ喋々辨駁セリ

吾輩今此義ニ付キ聊カ陳スル所アラントス然リト雖レ之ヲ
 辨論スルニ先タツテ精密ニ借主(政府)ト債主(人民)トノ關係ヲ確
 知センカ為メ國債ノ定例ヲ説明セサルヘカラス

抑モ政府徴集シタル金額ヲ使用スルノ目的ハ政府ノ官用ニ費
スニアラスレテ内國ノ工業ヲ提起得助スルニ用ユルモノナリ
ト云ヘルヲ以テ略其大意ハ解スルヲ得ヘシト然レ其本
ヲ使用スルノ方向ヲ示スル確案ナラサルカ故ニ人民ハ其提起
保助スルノ工業ハ何種ノ工業タルヤ又タ其徴集セシ金額ヲ却
スノ工業ハ果シテ何等ノ工業タルヲ知ラサルナリ
政府ノ要求シタル金額ハ百ニ付二割ノ割引ニテ呼向ナリ百五
十万円(即チ手取りハ壹千万円ナリ)トス而シテ償還法ハ二十五
ケ年間ニ年賦ヲ以テ拂ヒ返シ利息ハ百分ニ付キ六分ノ割合ニ
シテ之ヲ金銀貨ヲ以テ拂ヒ或ハ紙幣ヲ以テ拂フモ借主(即チ政
府)ノ便利ニ從テ之ヲ處分ス但シ半年期拂ヒ利子札(即チ利子
五十円以上ノ政府ノ証券ヲ発行シ之ヲ以テ返シ)ノ人ナリ
ナリ

但シ外國人ハ右募債ニ付キ申込ムルヲ得ス且ツ此等ノ証券ヲ
抵当ニ取り放銀スルヲ得サルナリ七ヶ年ノ新内債ニ付キハ
猶ホ數多ノ小條例アリテ以テ政府ノ規則ヲ示メセリ
一千八百七十三年ニ於テ日本政府ク内債ノ事ニ付キ施行セシ件
々ト此度ノ内國債徴集ノ條例ハ頗ブル相類似スル所アリ即チ
其條例タル紙幣ヲ以テ債ヲ募収スルハ無益トスルモノ、如レ
之レヲ以テ考カフルハ債主(人民)ノ正債ヲ以テ入金ハル以上
ニアラザレバ今般ノ新徴集ハ決レテ眞實ノ成功ト云クナリ
ナルナリ然ラハ則チ其日本人ノ謂ハユル成功ハ眞實ノ成功ニ
非ラズレテ大ナル失錯ナルナキヲ保センヤ
内國債徴集ノ條例ヲ見ルニ五拾円以上ヲ出シ申込ムモノハ
百分ニ付キ六分利附ノ政府ノ國債証券ヲ渡シ其証券ハ年賦割
ノ勘定ヲ以テ年々ニ之ヲ金使ヲ以テ償還スルコトニ定メラレ

タリ

今尚ホ或ハ迄頃迄人ノ取引ニタル旧公債ノ百分ニ付キ六分利
附キノ政府ノ國債証券ノ條例ハ新公債ノ條例ト其大底ヨリ同
スト雖モ其不同ナル所ニ緊要ト称スヘキモノ茲ニ一アリ
即チ旧公債ノ証券ハ金債ヲ以テ之ヲ交換スヘキモノナレバ新
公債ノ証券ハ固ヨリ其償還スヘキモノタルト相違ナリ
モ其條例ノ第四條ヲ見ルニ其果ニテ何ヲ以テ償還スヘキヤ償
還法ノ掲載明解アルヲ見サルナリ
然リ而レテ今般新國債徵募ニ就テハ紙幣ヲ以テ募集シ其紙幣
國債ノ利子ヲ拂フニモ亦タ紙幣ヲ用エルトテ政府ヨリ財主ニ
示メサレタリ然ルニ此財主ハ旧國債ニ入金セシムルガ旧
國債ノ利子ハ今般ノ國債ノ利子ト同ナレバ正債ニ償還
セラルトテ今般ノ國債証券ヨリモ財主ニ取リテ一層利

益ノモノナリ然ク此正債償還ノ利益アル旧國債証券ニ入
金セレ敏捷ナル財主ノ今般紙幣償還ノ利復徵募ヲ得
セレハ復タ笑フヘキノ事ナラスヤ
然リト雖モ日本政府ノ今般ノ新國債ヲ徵集スルニ付キテハ紙
幣ヲ徵集スルヲ欲セシテ正債ヲ以テ徵集セント欲スルノ意
思アルヤ左ノ事實ニ依リテ以テ考フルハ則チ問ハレテ其
レ明訓ナリ
第一ハ公債ヲ徵集スルニ付キ國債証券ヲ發行スルテ百分ノ付キ
ニ割リノ割引ヲ為セリ
第二ハ尙キ万円ノ証券ヲ發行シタルモ其發行ノ總高ニ付種々
ノ説アレバ到底實地ノ所ニテハ其高ノ限リアルヘカラス
テタトモ準備金ノ備アルモ彼ノ愚民ノ妄リニ信シ居ルカ如キ
金額アルニアラス敢テ借主ニ格別ノ便宜ヲカラザレトノ事

實ニ由リテ考フルハ政府ノ債權ヲ徵集スルヲ欲スルヲ知ル
ナリ
夫レ財主ガ償還期限ナキ紙幣ヲ以テ拂期限アル証券(即チ公債
ノ新國債証券ヲ指スナルヘシ)ト交換スルニ於テ財主ノ該取扱
ニ由リテ其利スル所ハ割増ト利息トナリ然レハ財主ハ猶ホ考
カフル所アリテ其利ノ動カサル所ヲ認メシナリ即チ紙幣トシ
テ渡サレタル政府ノ該新國債証券ノ相場割合ニ下落スルキハ
入金セレ元金モ共ニ下落セサルヲ得サルヘシ然レニ割大ハ八
金者ノ方ニ保存スレハ随分政府ノ國債証券ノ價格ノ動搖ヲ一
通りハ防禦スルニ足レリト思維シ甘マシレテ以テ今般新國債
ノ徵募ニ應セシナルベシ
今日本ニ於テ流通スル紙幣ノ總高ニ於テハ諸説紛々トシテ
定ムラス然レハ大蔵卿ノ報告ニ由レハ幾ント一億万円トス但

レ此金額ハ今般政府ノ發行シタル証券五千万円ヲ紙幣ト見做
レテ之レヲ算入シタルモノナリ
右ニ付キ甚タ奇異ト稱スヘキモノハ日本人民ノ信ヲ紙幣ニ置
クノ大ナルモノ是レナリ即チ紙幣ト正貨ト比較シテ紙幣市
價ノ浮沈ニ大小ノ差アリテ少シク異ナル所アルハ唯タ外國人
貿易工ノ取引ニ於テ知ルヲ得ヘキノミ此外ハ決シテ紙幣正貨
差違ナキカ如シ
故ニ日本國ノ外國ト貿易ヲ為スヲナクシハ恐クハ正貨正貨
其價位ヲ同フレ刺ヘ紙幣ハ取扱ノ便ナルヲ以テ人皆正貨ヲ取
ラスレテ紙幣ヲ好ムモ亦測リ難シ故ニ今般更ニ千万円ノ証券
發行アルカ為ニ從來流通セル紙幣ノ市價ヲ下落セシムルハ
殆ント信ス可カラサルナリ
政府ハ今般内債呼高千二百五十万円ニ就キ二百五十万円ノ

割引ヲ為シ共ニ七拾五万圓ノ年利息金ヲ拂フト至氏之レカ為
タニ國債ノ欠乏ヲ来サス却テ政府ノ内國工業ノ提起セント欲
スルノ目的ハ紙幣ヲ用ユルモ正債ヲ用ユルモ同様ニ達セザレ
タルヘシ

然リト至氏政府其固有ノ紙幣ヲ償還スルニハ一度正債ト交還
シテモ直チニ再度發行スヘケレハ每百ニ付キ二割ノ割引(借
借主ヨリ指ス)ヲ与フルハ固ヨリ其好ム所ニ非ラザルヤカナ
リ

政府ノ重モニ徵集スルヲ欲スルモノハ正債ナルハ故ニ若レ正
債ヲ集マルト其要求ノ總額ニ應スルニ足ルヲ得ハ此度ノ新公
債ノ徵集ハ全成功ヲ得タリト謂フヘキノミ
然リト至氏政府ノ断然交換スヘカラレシ紙幣ヲ以テ若干
圓ヲ徵集シテルハ正債ヲ徵集スルト殊ナリ其結果ハ理財ノ定

理ヲ破リ國債ヲ徵集セルヲ誤マルニ至ルヘシ
即チ借主(政府)ハ其徵集金ヲ以テ其利ヲ言ハ能ハス且國債徵
集ノ發令ノ時人民ニ示シタル内國工業ヲ提起スル目的ヲ達
スルヲ得サルヘキナリ
「ジャッパル」メールノ記者ノ主張スル所ニ拠レハ内國債ノ成功
ハ日本國民ノ其政府ヲ信用シ且ツ之レニ忠義ヲ尽スルニ由ル
ノ証拠ナリ而シテ其償還スルノ期限ナキ紙幣ヲ以テ償還スル
ノ期限アル証券(每百ニ付キ二割ノ割増及ヒ毎百ニ付キ六分ノ
利息付キ)ト交換セシ位ノ事ニテハ債主(人民)ヲレテ徵集ニ應マ
レムルノ心ヲ勵マスニ足ラサルカ故ニ其徵集ニ應レテ債主(人
民)ノ出銀シタルノ本心ハ割増ニ利息ノ為メニ心ヲ動セシモ
ノニ非ラズレテ全ク政府ヲ信用スルノ厚キニ出ツルヤ明カナ
リト云ヘリ

今我輩ヲレテ財主ノ徴収ニ應レタルハ果レテ如何ナル原因ニ
由ルカ實際ノ点ヨリシテ之レヲ判断セシムヘシ且ツ函茶ノ僻
見ヲ止メテ其真正ノ源ヲ探知セシムヘシ

右記者ハ(按スルニ「ジャッパン」)ハ一百年前ニ英國ニ於テ
今般日本ノ徴収シタル金額ト同様ノ金額ヲ徴収セシキニ當リ
其徴集スルノ難カリシトテ喋々論シタリト茲ハ余輩ハ其
對シテ云ハシテ七十七年ト七十七年ト七十七年ト聞ク英國政
府ハ容易ニ正債ニテ九千四百萬磅ヲ徴収スルヲ得タリト
此金額ヲ徴収シタルマ英國ハ人民一般ノ好マサル不正ノ戰爭
ヲ為スノ軍費ニ充テタルニ非スマ且ツ其時ニ當リテ英國政府
ノ歳入ハ今日日本ノ歳入ニ越ユルヲ總ニレテ國中ノ人口ハ只
其三十分一即チ殆ソト一千万人ニ過ルルノ時ニ非
又々鉄道ハ如キ有益ノ工業ヲ營ナムニ紙幣ヲ以テ之レヲ為

スヲ得ヘレト云フマ如キハ竝モ其考ヘサルノ甚キモノト云
フヘレ
夫レ紙幣ヲ以テ此國ノ傭工ハ傭フヲ得ヘレ又々此國ニ生シタ
ル材料ハ紙幣ヲ以テ之レヲ買フヲ得ヘレト茲ハ錦道ノ建築ノ
如キハ内國ノ材料ノミヲ以テ成就スヘキモノニ非ス必ス正債
ヲ以テ外國ノ材料ヲ買ハサルヲ得サルニ非スマヤ
故ニ交易ノ主義ニ於ケル該記者(按スルニ「ジャッパン」)ハ新
聞ノ議論又々流通貨幣及テ國債主義ニ於ケル右記者ノ見及ハ
無根ノ妄説ニシテ熟思ヲ要セサルノ結構ナレハ大方ノ笑ヲ招
キ且ツ虚妄ノ妄論ナルカ故ニ淺智ナル看官ハ此論ニ由リテ感
歎セシムルヲ得ヘクモ豈ニ識者ヲ厭マシムルヲ得ンヤ故ニ
吾輩ハ之レニ對シテ喋々論スルモ只時刻ヲ費ヤスノミナルカ
故ニ更ニ之レヲ論スルヲ用ヒザルヘシ

今吾輩ノ茲ニ論スルノ要スルモノハ曩ニ此新紙(按スルニ「ジャ
ツパンガゼット」ニ於テ掲載シタル國債論ニ就キ該記者ノ妄ニ
評論ヲ下シ論理ニ悖戾シタル妄論ヲ以テ辨駁シタルカ故ト聊
カ之レニ答辨シタルノミ
前号ニ掲載シタル國債主義ニ付キ吾輩ノ第一論ニ及シテ説キ
出シタル内國記者ノ異論ハ人皆之レヲ好ミレドレヲ採スル所
ニシテ取り別ケ日本今日ノ新聞記者ノ論スル所ノモ入ル必ス
世人ノ明論トシテ之レニ敬服スル所ナルヘシ
報知新聞ノ如キハ無益ノ妄論ヲ唱ヘテ此度ノ内國債ハ全國ノ
人民ノ喜ンテ其徵集ニ應シタルモノニシテ殊更ニ貴族及僧侶
等ノ其貯蓄セシ金額ノ運轉ニ昧ラキカ故ニ運轉セズシテ後ツ
テ利益ヲ生マサレハ此利益ヲ生マサル財ヲシテ有益財タラ
シメシク為シ巨大大金額ヲ出銀シタルヲ論セリ

又タ人民ノ均ニ此徵集ニ應セサルモノアルハ其自カラ應セサ
ルノミナラス人民ヨリ徵収シ難キ三ヶ條ノ道理アルカ故ニ政
府モ亦敢テ之レヲ要セサルナリ、第一條ノ等人民ノ貧窶ナル
是レナリ、第二條ノ人民ノ時勢ニ暗キカ故ニ政府ノ要メニ應セサ
ル是レナリ、第三條ノ政府ヨリ之レ等ノ金額ニ付キ小財主ニ謀ル
ノ煩ヲ憚カリシ場合アル是レナリ
此等ノ議論ハ人民ノ國債ノ徵収ヲ喜バサルヲ辨シ其為ニ却
テ前ニ吾輩ノ述ベシ所ノ議論ヲ強メ(確乎トシテ)動かム可カラ
ナル様ニ助カスルヲ云フナリ)人ノ説ヲ駁セント欲シテ却テ他
人ノ説ヲシテ定論タラシムル故ニ乘レテ以テ一撃ヲ試ミン
ト欲スレト取テ筆ヲ勞シ論スルニ足ラサルモノナルカ故ニ暫
ク之レヲ擱キ今論スヘキモノハ日本政府ハ其發行シタル証券
ヲ正貨ヲ以テ復タ交還スヘキヤ否ヤノ論題ナリ蓋シ其發行シ

タル証券ヲ正貨ヲ以テ是非交換スヘキモノトスルハ日本政
府ハ初メヨリ恐クハ此証券ヲ発行シ得サル可シト信スルナリ
若シ理財官ノ内國ノ工業ヲ提起スルノ目的ヲ以テ増加セテ
万圓ノ紙幣ヲ発行スル能ハスレテ債主ニ非常ノ勵マシヲ爲シ
已ムヲ得ズ之レヲ内國人民ニ謀リ増(但債主ヨリ指ス)及ヒ利
足ヲ以テ全國ノ人民ニ徵收分課スルカ如キトアラハ予輩ハ之
レヲ拙策ト云ハサルヲ得ス

日本帝國ノ財回ヨリ限リアリト雖モ壹千五百万圓ノ内債ノ如キハ
甚ク聊カノ儀ナルヘシ依之テ若シ此金額ヲ内國ノ人民ヨリ正
貨ヲ以テ徵收スルヲ得ハ則チ此度ノ政府ノ徵收シタル金額ヨ
リモ一層人民ノ政府ヲ信用スルノ兆ナルト予輩ハ信スルナ
リ
然リト雖モ人皆知ル如ク徵收シタル金額ハ重ニ紙幣ニシテ之

ヲ出スモノハ人民中ノ最も富タルモノニシテ社會ノ一部分ニ
止マルカ故ニ之レヲ以テ人民ノ果シテ政府ヲ信スルヤ否ハ未
タ論ヲ下ス可カラサル所ナリ其故如何トナレハ之レ等ノ人民
ハ國ノ豪富ナルカ故ニ政府ヲ信スル信セサルニ関セス其出銀
額位ハ固ヨリ厭ハサル所ナリ

此未端ニ於テ余輩ハ報知新聞ニマテ一言ヲ呈セントス余輩ノ
第一篇ニ論述セシ内國債論ハ日本國ノ公債ヲ政州ニ徵收セザ
ルヲ失望シテ論シ来リタルモノニ非ス其本意ハ外國ノ理財家
ハ日本帝國ノ容易ニ壹千五百万圓ヲ之レヲ外債ニ募集セシテ内
債ニ由リテ徵收シ得タルコトニ驚キ日本國ヲ見誤マラントテ
恐レテ日本帝國内部ノ眞正ノ形状ヲ示シタルニ過キサルノモ

